

動物園を考えてみる

動物応用科学科 3年 野呂ほづみ

私は子供のころから動物園によく行きました。テレビで見る動物を近くで見られたり、ふれあいコーナーで小動物を触れたりできるので、動物園は大好きでした。また、スケッチブックを持って歩き様々な動物の絵を描くのも好きでした。

今回 3 か所の動物園で実習させていただき、動物園の内側を体験することができました。そして、いくつかのことを学びました。

まず、動物園動物は飼育係を始め、多くの方々に支えられているということに改めて感じました。中でも飼育係の作業は、餌の準備、排泄物の処理、体調管理、その動物に関する論文を読んで管理方法などを勉強するなど多岐に渡るものでした。私たちが動物園で動物を見ている裏側では、飼育係の方が動物のために手を尽くしている事を知りました。

それを知ってから動物を見ると、幼い頃の見方とは変わり、もっと詳しいことが知りたくなり、パネルやガイドに興味を持つようになりました。

もうひとつは、動物園にいる野生動物に対する考え方です。一般的に、動物園には以下の 4 つの役割があるとされています。一つ目にレクリエーション（娯楽）。二つ目に教育。三つ目に研究。四つ目に種の保存（繁殖）。

動物園の存在意義に関しては賛否両論あります。反対意見も慎重にとらえて、これからの管理の糧になるよう考えるべきです。

そして私は現場での実習を通して以下のように考えるようになりました。

もともと動物園は貴族の娯楽目的で建てられた施設とされています。日本では「みせもの」が始まりとされています。今でも「何をしに動物園に来たのですか？」と質問すると、8割以上の人が「楽しむため」と答えるそうです。このことを批判する意見もあります。しかし私は、それでもよいのではないかと考えるようになりました。その「楽しむため」に来た方々はもともと動物に強い興味があるわけではないと考えられます。そのような方が動物を見て、「楽しむ」から一歩進み、動物の生態的なことや、人間との関係、野生下の現状を知ってもらえたら、それは動物園の役割の二つ目の教育になると思います。

そして、動物園に野生動物や絶滅危惧種がいることに関しては「かわいそう」とか、「本当に必要があるのか」という意見があります。よくわかります。本当に繁殖が目的ならば、人目につかないように繁殖をすべきです。しかし、動物が展示されているのは繁殖以外にも目的があるからです。中には、教育目的もあります。実際に動物園でも、人に慣れさせない個体（繁殖目的）と人前に出す個体（教育目的）に分けることもあります。そしてここで考えるべきだと思うことは「人前に出す個体（教育目的）」を犠牲に種の保存をしていることが多いということ。私は、止むを得ないことだと考えています。

なぜなら、野生動物の保全のためにはお金が必要だからです。野生動物や絶滅危惧種を目玉とすることで客足が増しお金が入り、そのお金が動物の繁殖や飼育には必要です。

だから私は、その「人前に出す個体(教育目的)」の命と引き換えにそれ以上の結果を出せるのならば、そのような飼育の方法も重要だと考えています。このことは、とてもむずかしい問題なので、これからも考え続けたいと思っています。

+++++

編集後記：

おそろしく暑い夏が去り、秋が来て、植物は休みなく実をつける準備をしていたのだと、改めて気づかされます。各地でツキノワグマが出没

今回の実習では「内側から」動物園を見ることができたおかげで、動物園の機能や意義について考える機会になりました。動物園は大人から子供まで学べる場所でもあると改めて感じました。一般的に動物園には人生で4回行く、と言われるそうです。子供の頃、デート、親になってから、孫をつれての4回ですが、あと1回「動物を知るため」に足を運ぶ人が増えたらいいなと思います。

しては駆除されるというニュースが続き、ふさいだ気持ちになります。今月はあちこちを向いた話題でした。(高槻)